

キャンプ桑江南側地区



まちづくりニュース

ホームページ

<http://www.chatan.jp/project/camp-kuwae/index.html>

—第11号—

陽春の候、キャンプ桑江南側地区の地権者の皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

キャンプ桑江南側地区（以下、本地区）の返還については、日米政府間で合意がなされているものの、具体的な返還時期が明らかにならない状況が続いていますが、返還後の跡地利用を円滑に進めるためには、返還前から地権者の皆様と町が一緒になって跡地利用に関する検討を進めていくことが必要です。

今号では、今年度の「まちづくり勉強会（第1回～第3回）」での取り組みと、2月末に開催した「平成23年度まちづくり説明会（第2回）」についてお伝えします。

今年度のまちづくり勉強会の活動について

■平成23年度まちづくり勉強会の概要をお伝えします

第1回（平成23年11月7日）

- 1 今年度の取り組み
- 2 沖縄21世紀ビジョンと基地返還跡地について
- 3 賑わい広場のあり方について

第2回（平成24年1月16日）

- 1 賑わい広場あり方について
- 2 賑わい広場の基本方針(案)の検討

第3回（平成24年2月7日）

- 1 賑わい広場の検討のまとめ

- ・3回を通して、広場について検討を行いました。
- ・誰が、いつ、どのような使い方をする広場が良いか、という問いかけからスタートし、いろいろな広場の事例も確認しながら、意見交換を行いました。
- ・そして、有識者会からの意見も踏まえて、本地区における広場（公共空間）のあり方を整理しました。



平成23年度 まちづくり説明会（第2回）について

～開催の概要～

- 開催日 平成24年2月29日（水）
- 開催場所 北谷商工業研修等施設（商工会ホール）
- 説明内容
 - 1 返還に関する現状報告
 - 2 今年度の取り組み
- まちづくり講演会
「桑江南の上等まちづくり」（琉球大学 安藤准教授）
- 参加者数 59名



会場の様子

●北谷町総務部長[謝花良継]挨拶（概要）

- ・跡地利用計画を地権者の皆様の意向に沿った計画にしていくためには、地権者の皆様と町と一緒にまちづくりに取り組んでいく必要があります。
- ・本地区を魅力あるまちにしていくためには、関係機関、有識者等からもご協力をいただきながら、より良い跡地利用について検討し、取り組んでいくことが重要です。
- ・この説明会によって、町と地権者の皆様との「まちづくり」についての意識の共有が図られるとともに、跡地利用への関心が高まることを期待しています。

～説明の概要～

1 返還に関する現状報告

- 本地区の返還に関する状況について、説明しました。
- ・H24.2.8に在日米軍再編計画の見直しについて、日米両政府による共同発表があり、普天間基地移設と本島中南部の基地返還等を切り離す方針が示されました。
- ・この方針が実現すると、これまで本地区の返還条件の一つだった普天間基地移設が返還条件ではなくなります。
- ・再編計画の見直しは数か月以内に結論を出すことになっており、現時点で返還時期は明確になっていません。

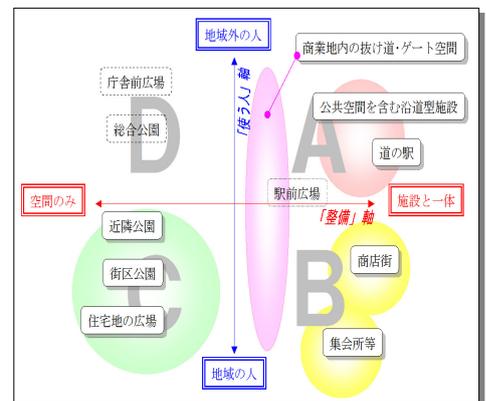
返還に関する現状報告

《H24.2.8 日米共同発表のポイント》

- 「在沖海兵隊のグアム移転」と「沖縄県南部にある米軍5施設・区域の返還」を普天間基地移設と切り離して先行
- 在日米軍再編計画の見直しは、数か月以内に結論 **桑江南側地区の返還に大きく関連する部分**
- 米軍普天間基地の代替施設を名護市辺野古へ移設する現行計画案は唯一有効な進め方
- アジア太平洋地域の平和と安全を維持するため日米同盟を強化

2 今年度の取り組み

- 跡地利用の実現に向けた今年度の取り組みについて、説明しました。
- ・今年度は、検討課題のひとつである賑わい広場について検討を行いました。
- ・賑わい広場とは、広場という名前がついてはいますが、返還後の新しいまちの価値を高め、地域に賑わいを出し、地域を活性化するための「公共空間」と考えています。
- ・まちづくり勉強会や有識者会での意見交換を踏まえて、図のように2つ軸を設定して、様々な広場（公共空間）を整理分類しました。



【広場（公共空間）の整理】

※当日の説明資料は、ホームページで見ることができます。

キャンプ桑江南側地区まちづくりホームページ

<http://www.chatan.jp/project/camp-kuwae/index.html>

～まちづくり講演会の概要～

講師：安藤徹哉先生
 (琉球大学 工学部 環境建設工学科 准教授)

演題：『桑江南の上等マチづくり』

安藤先生には、平成 19 年度より、有識者会座長として、本地区の跡地利用計画に対する提言や助言をいただいています。



講演内容の要旨

- ・ 少子高齢化が進む中で、嘉手納以南の軍用地が返還されると、住宅地が供給過剰となる。そのため、人が住みたくなる魅力あるマチを努力してつくっていく必要がある。
- ・ まちづくりの主役は地権者の皆さん。しかし「まちづくりは百年の計」と言われるように、孫や子の代から感謝されるよう、次世代のことを考えながら進める必要がある。

外部の人から見ても、地権者の皆さんから見ても「良いマチ」だと感じられる桑江南の魅力

●桑江南の魅力 = マチづくりの目標

- ・ 安心して一生、住み続けられるマチ ⇒ 「高級」ではなく、「**上等**」を目標に
 (これは、地権者の方からいただいたご意見がもとになっている)

■安心＝災害に強いマチ

- ・ 災害時に役場と連携して対応できる施設や空間として、学校や公園を一体的に確保。
- ・ いざという時の備えが、安心して暮らせるマチには必要。

■一生暮らせる＝高齢化社会に対応したマチ

(車を運転できなくても、歩いて暮らせるマチ・買い物や通院も歩いて行けるマチ)

- ・ 日常生活に欠かせないスーパーや町医者がマチの中央に集まっている。 (ワンストップサービス)
- ・ 車イスやベビーカーでも安心して通行できるゆとりや緑陰のある歩道の確保。 (歩行者ネットワーク)



健康長寿の基本は歩くこと!



歩道の上には緑陰を連続させる

■街角広場のイメージ

- ・ 西海岸と本地区の結節点であり、「まち顔」「ゲート」と言える位置。
- ・ ^{がらんどろ} 伽藍堂のスペース (空き地) ではなく、地区全体の魅力や価値を高める共有財産となる大切な場所という意味の広場。
- ・ 大きさではなく、場所とつくり方の工夫が必要。
- ・ モールのような場所になれば、住民にとっては近道、店舗にとっては集客効果、双方にメリットがある。



～説明会での意見交換～

- 日米両政府の共同発表があり、本地区の返還にも大きく関連するということですが、具体的にはどうということですか？

→北谷町より

これまでパッケージとされていた普天間飛行場の移設と切り離されれば、本地区のみの返還条件がクリアされることによって返還がなされるものと考えられます。よって、本地区の返還は早まるのではないかと考えています。

- 軍転法が今年度末に失効して新しい法律に代わるということですが、具体的にどうところが改正されるのですか？

→北谷町より

給付金の支給期間が、これまでは返還されてから3年間となっているが、引き渡しから3年間に変更される見込みです。(返還とは、米軍から日本政府へ返還されること。引き渡しとは、国が米軍施設の撤去等の原状回復を行った上で地権者へ土地を引き渡すこと。)

また、行政が返還後の公共用地を先行取得する場合の譲渡所得に対する税控除が、5千万円に引き上げられる見込みです。

その他に、返還前の立ち入りや原状回復措置についても、現行法よりも改善された内容になる見込みです。

しかし、これらは今後国会で決定されることであり、現時点で決まったものではありません。



- 鉄軌道の導入が現実になると思う。駅を中心としたまちづくりについても、是非検討してほしい。

→北谷町より

鉄軌道の導入については、内閣府や沖縄県において、その調査費の予算計上がされているところであり、これから取り組んでいくという状況です。

町としては、交通渋滞に対応するためには、鉄軌道の導入も必要ではないかと考えており、要望していきたいと考えています。

※紙面の関係で全ての質疑の掲載ではありません。申し訳ございません。

《これからの取り組みについて》

来年度は、本地区の返還に密接に関わる在日米軍再編計画見直しの決定や跡地利用新法の制定等が予定されています。それらについては、まちづくり説明会等において情報提供をしていきます。

跡地利用は、地権者の皆様の積極的な参加が非常に重要ですので、今後ともご協力をお願い致します。

編集・発行/北谷町総務部企画財政課

発行日/平成24年3月

問い合わせ先/北谷町役場 総務部 企画財政課 企画係

TEL : 098-936-1234 (内線 165) FAX : 098-936-7474

このニュースに関するご意見、まちづくりに関するご質問、ご要望等がありましたら、お気軽にご連絡下さい。